

# 歌を使った日本語文法教育(11) —「他動詞・自動詞の歌」について—

溝口 博幸 \*

## Japanese Grammar Education Using Music (11) “The Song of Transitive and Intransitive Verbs”

Hiroyuki MIZOKUCHI

**Abstract:** It is very efficient to teach transitive and intransitive verbs simultaneously in Japanese language education. Because many transitive and intransitive verbs often have very similar pronunciation, they are paired so that studying Japanese vocabulary and grammar becomes easier. In other languages, there are not always many transitive and intransitive verb pairs, so Japanese language learners need to study that there are similarities and differences between Japanese and other languages.

In this article, the construction and other features of Japanese transitive and intransitive verbs will be discussed. The contents of “The Song of Transitive and Intransitive Verbs” (July 2017), as one of the music teaching materials for Japanese language education, will also be explained. The order of teaching transitive and intransitive verbs will also be mentioned. Because it is easier for learners to understand the differences between the two types of verb, sentences containing transitive verbs should be introduced before sentences containing intransitive verbs.

**Keywords:** *ta-dousi (Transitive verbs), ji-dousi (Intransitive verbs), learning strategies*

### 1. はじめに

例えば、「わたしがドアをあきました」と書いたとする。これは「他動詞・自動詞に関する誤用だ」と言えるだろう。他動詞と自動詞という概念は、もちろん日本語だけでなく他の言語にも存在するが、言語表現を行なうとき、その使い方・表し方が同じであるとは限らない。

日本語教育において、他動詞と自動詞を同時に学習・教育することは効率的なことだと考える。それは日本語の他動詞と自動詞は、音声が似通ったペアとなっているものが非常に多く、一緒に扱うことで日本語の語彙や文法の学習がしやすくなるからである。また他の言語の場合、日本語のような他動詞と自動詞のペアになっていないことも多く、学習者は他言語との共通点や相違点も認識しながら学べるし、その必要性があると考えられるからである。

本稿では、日本語の他動詞と自動詞の特徴を考察しながら、Oxford(1990)のいう情意や記憶の学習ストラテジーの効果があると期待できる「日本語教育のための音楽教材」 「他動詞・自動詞の歌」(2017年7月作成)の構成内容の解説をしていく。

### 2. 他動詞・自動詞について

#### 2. 1 他動詞・自動詞とは

日本語の他動詞と自動詞とはどのようなものか。市川保子(2005)は、『初級日本語文法と教え方のポイント』の「他動詞・自動詞」の中で、次のように説明している。

「ドアを開ける」「電気をつける」の「開ける」「つける」のように「名詞(目的語)+を」をとる動詞を他動詞、「ドアが開く」「電気がつく」の「開く」「つく」のように「名詞(目的語)+を」をとらない動詞を自動詞と言います。

ただし、「名詞+を」をとっていても、「名詞+を」が「動作・作用の対象」になっていない、次のような動詞は他動詞とは言いません。

通過点を表す「を」: 道を通る、右側を歩く、空を飛ぶ  
出発点・起点を表す「を」: 部屋を出る、バスを降りる、大学を卒業する

人がドアを開けるとき、その人の動作に注目すると、「○○さんがドアを開ける／開けた」になります。一方、動作を受ける対象の「ドア」に注目すると、「ドアが開く／開いた」になります。

このように、他動詞と自動詞は、話し手が動作主に焦点を合わせて述べるか、動作を受ける対象に焦点を合わ

\*近畿大学工業高等専門学校  
総合システム工学科(共通教育)教授

せるかによって使い分けられます。

市川保子(2005)の提示した「ドアを開ける」「ドアが開く」はわかりやすい例だが、「誰が」ドアを開けるのかを提示するほうが、主体が何であるかということ比べられてさらにわかりやすくなると思われる。また、「他動詞と自動詞は、話し手が動作主に焦点を合わせて述べるか、動作を受ける対象に焦点を合わせるかによって使い分けられます。」とあるが、これは「能動文・受動文」の概念と共通していることと、「私は行く」など動作を受ける対象がない場合もあるので、必ずしもこの説明が当てはまるというわけではないので注意が必要である。

高橋太郎 他(2005)は、『日本語の文法』第6章の「他動詞と自動詞」で、次のように述べている。

動詞のなかには、他のものにはたらきかける運動を表すものと、そうでないものがあり、前者を他動詞、後者を自動詞という。つまり、対象的な関係で名詞の対格を支配するものが他動詞であり、そのような支配をしないものが自動詞である。

#### 他動詞

- ・きょうは ひっこしなので、へやのものを ぜんぶ そとに はこびだす。
- ・ぼくのおじいさんは 字の こまかい 本を よむ。
- ・おまつりの 練習では、みんなで たいこを たいたた。
- ・新聞委員が かべ新聞を かべに はりつけた。

#### 自動詞

- ・サルも 木から おちる。
- ・山のお寺の かねが なる。
- ・運動会の つなひきの ときに、ふとい つなが きれた。
- ・台風で、たてた ばかりの 小屋が たおれた。

他動詞：ひっぱる たてる はこぶ だす ながる  
ける わたす なげる みる にる きる

自動詞：いく かえる あるく ころぶ とぶ  
およぐ すわる ねる おきる つかれる  
ほえる こおる つもる おちる

英語の「I will open the door.」と「The doors on the right side will open at the next station.」という文を見てみよう。この二つの文の述語には同じ動詞「open」が使われている。前の文は「私が ドアを あける」なので他動詞、後の文は「ドアが あく」なので自動詞である。前者は動作を行なう「I」が主語でそこに焦点が当たり、動作を受ける対象としての目的語「the door」がある。それに対して後者には目的語がなく「The doors on the right side」が主語で、そこが注目されている。これらの他動詞・自動詞の機能としては、日本語と同じ対応をしていると言える。

## 2.2 他の言語(英語)との違い

日本語の他動詞・自動詞は、使い方が他の言語と異なっていることがあり、教師も学習者も注意が必要である。

例えば、日本語で「おどろかす(odorokas-u)」は他動詞、「おどろく(odorok-u)」は自動詞である。では、英語ではどうか。「He always surprises me.(彼はいつも私をおどろかす。)」と「I was surprised at this matter.(私はこのことにおどろいた。)」の二つの文において、「surprises(おどろかす)」は他動詞、「surprised」は受動態を作る過去分詞(他動詞)または形容詞で、主語の「I(私)」の状態を表していると言える。後の文を日本語で「おどろかされた」のように他動詞の受動の形でも表せるが、通常は「おどろいた」と自動詞で表すことが多い。また、前の文を「彼はいつも私をびっくりさせる(bikkuris-ase-ru)」、後の文を「私はこのことにびっくりした(bikkuris-ita)」と訳すこともできる。その場合、日本語では「びっくりさせる」が自動詞の使役形で、「びっくりした」も自動詞である。「びっくりさせられた(bikkuris-aser-are-ta)」と訳せば、それは自動詞の使役の受身形である。このように自動詞の無意志動詞が使役形となり、他動詞のような機能を持つ場合がある。

高橋太郎 他(2005)は、「他動詞相当の使役」の中で、自動詞であるが対象に働きかけるものをあげている。次にそこから抜粋して示すことにする。

#### 他動詞相当の使役

動作者に意図的な動作をさせるのではなく、他動詞のように、対象に直接はたらきかけることをあらわす。

##### ①無意志動詞の使役形式

主語が原因をあらわして、その結果として人間の無意志的な現象をひきおこすことをあらわすとき、無意志動詞の使役形がつかわれる。

- ・こたつに あたりながらの 気象学の 話や 文学 上の くわしい 引証談などが、わたしの 心を 楽しませた。(コト主語)
- ・この 答えは 祖母を すっかり 感心させた。(コト主語)
- ・たまには、客の ひとりが なにか じょうだんを いって むすめたちを わらわせ、それで 店中が なごやかになつたりする。(ひと主語)
- ・「岸本君は ときどき ひとを びっくりさせる。むかしから あの おとこの くせです。」(ひと主語)

##### ②自分の体の部分や装着物に対するはたらきかけ

- ・彼は たかい いすに すわって、あしを ぶらぶらさせている。
- ・少女が スカートを ひらひらさせて 階段を おりて いった。

この種の文は、構文としては、再帰構文になっている。

これらの説明から、自動詞の無意志動詞が使役形として使われる場合は、他動詞と同じような機能を持っていることがわかる。多くの辞書には、前述の動詞「おどろかす」は他動詞、「おどろく」は自動詞と出ているが、「おどろかす(odorokas-u)」は「おどろく(odorok-u)」(無意志動詞)の使役の形からできたということもできるだろう。

また、「みる・みえる」「きく・きこえる」も他動詞・自動詞の対になっていると言える。

他動詞 みる (mi-ru) きく (kik-u)

自動詞 みえる (mie-ru) きこえる (kikoe-ru)

「みる」「きく」は、「あした 子どもたちが 映画を みます。」や「毎日 子どもたちが CDを ききます。」など目的語があり他動詞を使う。「みえる」「きこえる」は、自動詞で自発や可能の内容を表す。「ここから はっきりと 景色が みえます。」「となりの 部屋から 音が きこえます。」は、「目に映つる／耳に感じられる」という自発を、「私は 小さい 字でも みえます。」「私は 小さい 音でも きこえます。」は可能の内容を表している。

先ほどの他動詞(みる/きく)の例は、次のように英語に訳せる。

・ Children will watch movies tomorrow.

・ Children listen to CDs everyday.

これらの文の場合、目的語の「movies」「CDs」もあり、「watch」「listen」は他動詞である。

では、後の自動詞(みえる/きこえる)の例はどうか。

自発の内容を表す場合、他動詞を使った受動態で

・ The scenery is seen clearly.

・ A sound is heard clearly.

と言えるが、自動詞の英文を作るのは難しい。

「見ることができる」「聞くことができる」という可能の内容で言いたい場合、

・ The scenery can be seen clearly from here.

・ A sound in the next room can be heard.

というように、他動詞の受動文で表現できる。また、

・ The scenery is clearly visible.

・ A sound in the next room is clearly audible.

のように形容詞文でも表せる。

主語を「I」にし能動文として、

・ I clearly can see the scenery from here.

・ I can hear a sound in the next room.

とも表現できる。

他にも日本語の特徴の一つとして、「自動詞の受動文」が存在することがあげられる。

他動詞の文の場合、

・ 犬が 子どもを かんだ。

・ 子どもが 犬に かまれた。

のように動作をするものに注目するか、その動作に影響を

受ける対象に注目するかで、能動文や受動文が作れるが、さらに日本語の場合、自動詞で受動文が作れることも特徴の一つと言える。次にその例をあげる。

・ 自動詞「泣く」の例

[能動] 毎日 赤ちゃんが 泣く (nak-u)。

[受動] 母親が 赤ちゃんに 泣かれる (nak-areru)。

・ 自動詞「降る」の例

[能動] 最近 毎日 雨が 降る (hur-u)。

[受動] 私たちは よく 雨に 降られる。(hur-areru)。

自動詞「泣く」の例文は、二つとも泣くのは赤ちゃんであるが、誰に注目したかが違い、主語が異なっている。前者は「赤ちゃん」に注目し、後者は「母親」に焦点が当たっている。後者はただ単に赤ちゃんが泣いているだけでなく、「母親」が困っている状態も含めて表現されている。自動詞「降る」の例についても、二つの文とも降るのは雨であるが、前者の主語は「雨」で、そこに注目し、後者は主語が「私たち」であり、ただ単に雨が降ることを表現しているのではなく、雨が降ることで「私たち」が困っているというニュアンスも表している文となっている。

以上のような例からも日本語と他言語(英語)では、いくつかの面で「他動詞・自動詞」に関連する表現の違いがあることがわかる。

## 2.3 他動詞・自動詞のペア

日本語には、他動詞と自動詞がペアになっているものが多くある。例えば、「止める・止まる」「出す・出る」「消す・消える」などである。これらは発音が共通している部分があり、そのことでペアとしての意識が強く感じられる。

「tomeru・tomaru」「dasu・deru」「kesu・kieru」の下線部分が同じ音である。

市川保子(2005)は、次のように他動詞・自動詞のペアのリストをあげている。

他動詞	自動詞
(～を)開ける	(～が)開く
閉める	閉まる
つける	つく
消す	消える
こわす	こわれる
なおす	なおる
決める	決まる
変える	変わる
入れる	入る
出す	出る
かける	かかる

また、高橋太郎 他(2005)も、「動詞のなかには、他動詞

と自動詞が対になっているものがある」と述べ、次のような単語のつくりかた（派生のしかた）における主な種類をあげている。（「ふ」は hu で、「つ」は tsu で示してある）

①他動詞がもとになったとおもわれるもの

- ・他動詞 ～-u husag-u tsunag-u kurum-u
- 自動詞 ～ar-u husagar-u tsunagar-u kurumar-u
- ・他動詞 ～e-ru kake-ru mage-ru osame-ru
- 自動詞 ～ar-u kakar-u magar-u osamar-u

②自動詞がもとになったもの

- ・自動詞 ～-u ugok-u nar-u kawak-u
- 他動詞 ～as-u ugokas-u naras-u kawakas-u
- ・自動詞 ～e-ru nige-ru same-ru nure-ru
- 他動詞 ～as-u nigas-u samas-u nuras-u

③どちらがもとになったともいえないもの

- ・他動詞 ～s-u nokos-u amas-u kaes-u
- 自動詞 ～r-u nokor-u amar-u kaer-u
- ・他動詞 ～s-u nagas-u kobos-u arawas-u
- 自動詞 ～re-ru nagare-ru kobore-ru araware-ru
- ・他動詞 ～-u nuk-u kudak-u war-u
- 自動詞 ～e-ru nuke-ru kudake-ru ware-ru
- ・自動詞 ～-u tsuk-u narab-u susum-u
- 他動詞 ～e-ru tsuke-ru narabe-ru susume-ru

これらはローマ字書きになっており、他動詞・自動詞のペアが認識しやすい。辞書形で示してある動詞の最後が-u の場合は強変化動詞（いわゆる五段動詞）で、-ru で終わっているものが弱変化動詞である。ただし、ここで示されているものはその直前が e で、e-ru となっているのでいわゆる下一段動詞である。「他動詞・自動詞の歌」で取り上げている他動詞「みる mi-ru」と自動詞「みえる mie-ru」のペアは両方とも弱変化動詞であるが、前者は辞書形の最後が i-ru なので上一段動詞、後者は e-ru なので下一段動詞である。

他動詞・自動詞の語形の似通ったペアについて、佐久間鼎は『現代日本語の表現と語法』に、他動詞・自動詞のペアのパターンを 8 種類程度にまとめている。高見澤孟 他 (2004) の『新・はじめての日本語教育 1』「13. 自動詞と他動詞」では 11 種類提示され、他の文献でも 20 種類以上のペアを挙げているものもある。このように日本語には語形が似た他動詞・自動詞のペアの種類が多くあるということで、学習者は一つ一つ覚えていく作業が必要になってくる。

## 2. 4 教え方の順序

他動詞と自動詞を同時に学習・教育すると前述したが、これは学ぶ項目の中で一緒に学ぶということであり、厳密に言えば物理的にはどちらかを先に扱わなければならない。その順番について、ここで少しばかり言及したい。

日本語に「自他」という熟語があり、辞書では「自分と他人」「自力と他力」「自動詞と他動詞」と出てくる。「自」が「他」より先に来ることから、これらをペアで教育・学習するとき、自動詞のほうを先に扱うのが順当のような気がしてくるかもしれない。しかし、実際にはほんの数分か数十分の違いかもしれないが、他動詞を先に扱ったほうがいいのではないかと考える。そのほうが学習者にとって理解しやすいように思えるからである。

例えば、「エミリさんは、明日も 学校に 行きます。」の「行きます」が自動詞であることを説明するとき、「この文章には（～を）という目的語が必要ないので、自動詞である」と言ったとしたら、学習者は「～をという目的語」とは何かを既習していなければ、その部分が意味不明のまま次に進むことになる。〇〇がないということを教えるには〇〇がある状態のほうを先に認識していないとどのようなものがないのか理解しにくい。〇〇がある状態の場合を先に教え、その後、それが無いというのであれば内容をスムーズに理解できるものである。他動詞・自動詞のペアを教える場合も同じく、「～を」の目的語がある他動詞のほうから扱い、その後自動詞を扱うほうが学習者にとって自然で理解しやすいと言える。

因みに項目の小見出しとして、高橋太郎 他 (2005) が「他動詞と自動詞」、市川保子 (2005) が「他動詞・自動詞」で、寺田和子 他 (1998) は「自動詞・他動詞」、佐々木泰子 他 (2007) は、動詞の項目で「動詞には自動詞と他動詞がある」と書き始めているが、いずれも説明は他動詞から行なっている。高見澤 他 (2004) は「自動詞と他動詞」の項目で、英語文法の説明をし、その後日本語の自動詞そして他動詞の順にイラストなどで説明がなされているようだ。これらの文献では、日本語の他動詞と自動詞を一緒に扱っているということでは共通している。また概ね、説明も他動詞そして自動詞という順になっている。

## 3. 「他動詞・自動詞の歌」について

### 3. 1 概要

「他動詞・自動詞の歌」は、「日本語教育のための音楽教材」の一つとして作成したもので、他には (1) て形の歌、(2) 形容詞の歌、(3) 受身形の歌、(4) 可能形と誘いの歌、(5) 使役形の歌、(6) 条件の歌、(7) 意志形の歌、(8) 命令形の歌、(9) やりもらいの歌、(10) そうだの歌、(11) ない形の歌、(12) ます形の歌、(13) 疑問詞の歌の教材がある。

今回作成した「他動詞・自動詞の歌」も、他の「日本語教育のための音楽教材」と同様に、①歌の音声、②カラオケの音声、③歌詞シート・クイズシート、④パワーポイント（歌詞とクイズ）、それに⑤楽譜のセットとなっている。本稿でも教材の内容がそのまま使用できるよう、次のように歌詞、クイズ、楽譜を後方に付録として提示する。

APPENDIX-1 → 歌詞（日本式ローマ字付き）

APPENDIX-2 → 歌のクイズ

APPENDIX-3 → 楽譜（歌詞付き）

歌詞シートやクイズシートには、ひらがなにローマ字を併記し構造上の関係を理解しやすくしている。

### 3. 2 「他動詞・自動詞の歌」の歌詞について

この「他動詞・自動詞の歌」は、「日本語教育のための音楽教材」として作成するという目的があるため、日本語の教育・学習がしやすいように、歌詞に工夫をこらしている。歌詞の特徴としては次のようなことが言える。

＜歌詞の特徴＞

- ・初めに他動詞を含んだ文、次に自動詞を含んだ文を示し、それがペアとなるようにしている。
- ・他動詞・自動詞ともに同じ語形のものも取り上げている。その場合も、先に他動詞、次に自動詞という順で提示している。
- ・歌詞の各文すべての主語を「…が」で、他動詞を含んだ文の目的語は全て「…を」で示している。
- ・歌詞中の主語の部分を      （二重下線）、述語を      の下線、目的語を      で示している。
- ・ローマ字書きの述語の部分で、発音の共通個所を太文字の下線付きで示している。

次に、歌詞の1番と2番を示しながら、その構成内容について説明していく。

#### ◆◆♪ 歌詞1番

- ◇vt. しょうぼうしが ひを けします。①  
(Syoubousi ga hi o kes-imasu.)
- ◆vi. いますぐにも ひが きえます。②  
(Imasugunimo hi ga kie-masu.)
- ◇vt. ドライバーが くるまを とめます。③  
(Doraibaa ga kuruma o tome-masu.)
- ◆vi. ゆっくりと くるまが とまります。④  
(Yukkurito kuruma ga tomar-imasu.)
- ◇vt. おとうさんが でんきを つけます。⑤  
(Otousan ga denki o tuke-masu.)
- ◆vi. あかるく でんきが つきます。⑥  
(Akaruku denki ga tuk-imasu.)
- ◇vt. おかあさんが こどもを おこします。⑦  
(Okaasan ga kodomo o okos-imasu.)
- ◆vi. あさはやく こどもが おきます。⑧  
(Asahayaku kodomo ga oki-masu.)

歌詞1番は、まず共通の音の「k」に「es-imasu」が続い

た他動詞①「けします」と「ie-masu」が続いた自動詞②「きえます」のペアから始まる。次に共通の音が「tom」の他動詞③「とめます」と自動詞④「とまります」、さらに共通の音「tuk」の他動詞⑤「つけます」と自動詞⑥「つきます」、最後に共通の音が「ok」で他動詞⑦「おこします」と自動詞⑧「おきます」のペアである。

この歌詞1番は、ペアの前者①③⑤⑦の他動詞を含んだ文の目的語を後者②④⑥⑧の自動詞の文で主語として登場させている点が特徴的である。①「ひを」に対して②「ひが」であり、③「くるまを」に対して④「くるまが」、⑤「でんきを」に対して⑥「でんきが」、⑦「こどもを」に対して⑧「こどもが」である。ここだけを見ると、「～を」と「～が」の差異ということになる。この前者の他動詞の文の目的語を後者の自動詞の文の主語に登場させたのには、ある教育的な意図を持っている。その意図とは、同じ語を使うことにより「～を」のある文が他動詞の文であり、「～が」と主語となっているのが自動詞の文であることをこの「対比」で浮かび上がらせることである。このことで動詞の「けします」と「きえます」、「とめます」と「とまります」、「つけます」と「つきます」、「おこします」と「おきます」の違いを際立たせようとしている。

歌詞2番については次のとおりである。

#### ○●♪ 歌詞2番

- vt. かんこうきやくが けしきを みます。⑨  
(Kankoukyaku ga kesiki o mi-masu.)
- vi. くっきりと けしきが みえます。⑩  
(Kukkirito kesiki ga mie-masu.)
- vt. おにいさんが おんがくを ききます。⑪  
(Oniisan ga ongaku o kik-imasu.)
- vi. はっきりと おんがくが きこえます。⑫  
(Hakkirito ongaku ga kikoe-masu.)
- vt. こどもたちが ふえを ふきます。⑬  
(Kodomotati ga hue o huk-imasu.)
- vi. はげしく かぜが ふきます。⑭  
(Hagesiku kaze ga huk-imasu.)
- vt. おねえさんが ドアを ひらきます。⑮  
(Oneesan ga doa o hirak-imasu.)
- vi. てをふれずに ドアが ひらきます。⑯  
(Te o hurezuni doa ga hirak-imasu.)

歌詞2番も同じく、共通の音を持った他動詞の文と自動詞の文のペアである。特に⑬⑭のペアには「ふきます(huk-imasu)」、⑮⑯のペアには「ひらきます(hirak-imas)」

という全く同じ語形で他動詞と自動詞の機能を持っている動詞を選んでいる。

また、歌詞1番と同じように、⑨⑩、⑪⑫、⑬⑭のペア各々の前者の他動詞の文の目的語「～を」を後者の自動詞の文に「～が」の主語として登場させている。ただし、⑬⑭のペアの場合のみ、前者の他動詞の文の目的語は「ふえを」であり、後者の自動詞の文の主語が「かぜが」で、同じではない。

何が主語のときに何が述語（動詞）になっているのか、また目的語が必要かどうかということは、他動詞・自動詞を認識させる上で重要なことである。その関係をわかりやすくするために、次に「他動詞・自動詞の歌」の歌詞1番と2番の主語・目的語・述語を表にまとめてみる。

〈歌詞1番の主語・目的語・述語〉

主語	目的語	述語（動詞）
消防士が	火を	消します <b>kes</b> -imasu 他
火が		消えます <b>kie</b> -masu 自
ドライバーが	車を	止めます <b>tome</b> -masu 他
車が		止まります <b>tomar</b> -imasu 自
お父さんが	電気を	つけます <b>tuke</b> -masu 他
電気が		つきます <b>tuk</b> -imasu 自
お母さんが	子供を	起こします <b>okos</b> -imasu 他
子供が		起きます <b>oki</b> -masu 自

〈歌詞2番の主語・目的語・述語〉

主語	目的語	述語（動詞）
観光客が	景色を	みます <b>mi</b> -masu 他
景色が		みえます <b>mie</b> -masu 自
お兄さんが	音楽を	ききます <b>kik</b> -imasu 他
音楽が		きこえます <b>kikoe</b> -masu 自
子供たちが	笛を	ふきます <b>huk</b> -imasu 他
風が		
お姉さんが	ドアを	ひらきます <b>hirak</b> -imasu 他
ドアが		

#### 4. おわりに

本稿では2017年7月に作成した「他動詞・自動詞の歌」について解説を行なった。前述したように、日本語の他動詞・自動詞は語形が似通ったペアが非常に多く、ここに上げた動詞のペア以外にも多くのパターンが存在している。また、同じ動詞で他動詞・自動詞の機能を合わせ持っているものもあれば、語形のペアとなっていない動詞もある。この日本語教育のための音楽教材の「他動詞・自動詞の歌」を日本語の他動詞・自動詞を考えるヒントとして、授業活

動やセルフスタディーなどの機会に活用し、楽しく教育・学習して下さることを願っている。

#### 参考文献

- 1) 市川保子(2005)、『初級日本語文法と教え方のポイント』pp257-264「他動詞・自動詞」、株式会社スリーエーネットワーク
- 2) 佐久間鼎(1983)、『現代日本語の表現と語法<増補版>』くろしお出版、(オリジナルは、恒星社厚生閣1966)
- 3) 佐々木泰子・森山シン・白井恭弘・鈴木伸子・久保田美子・楊虹・倉田芳弥・棚橋明美・大塚純子(2007)、『ベーシック日本語教育』pp244-245「2.2 動詞」、株式会社ひつじ書房
- 4) 高橋太郎・金子尚一・齋美智子・鈴木泰・須田淳一・松本泰丈(2005)、『日本語の文法』pp68-69「3.2. 他動詞と自動詞」・pp77-78「4.3. 他動詞相当の使役」、株式会社ひつじ書房
- 5) 寺田和子・三上京子・山形美保子・和栗雅子(1998)、『どうやって教える？にお答えします 日本語の教え方ABC』pp140-145「第20課 自動詞・他動詞」、株式会社アルク
- 6) 高見澤壮孟・ハント蔭山裕子・池田悠子・伊藤博文・宇佐美まゆみ・西山寿美(2004)、『新・はじめての日本語教育1』pp82-84「13 自動詞と他動詞」、株式会社アスク 語学事業部
- 7) 溝口博幸(2007)、「歌を使った日本語文法教育 一使役形の歌について」、『近畿大学工業高等専門学校研究紀要 第1号』pp97-101  
 \_\_\_\_\_ (2008)、「楽しく学べる文法学習のための音楽教材」日本語教育学世界大会2008(韓国) <第7回日本語教育国際研究大会> 予稿集1、pp235-238
- 8) OXFORD, Rebecca(1990) “Language Learning Strategies What Every Teacher Should Know”, Newbury House (A Division of Wadsworth, Inc.) 『言語学習ストラテジー (外国語教師が知っておかなければならないこと)』(2001) 宋戸通庸・伴紀子 訳、凡人社

#### 謝辞

この「他動詞・自動詞の歌」は、「日本語教育のための音楽教材」の一つである。この教材の開発(2004年開始)は、立命館アジア太平洋大学常勤講師時代から始めたもので、当初よりミュージシャンで立命館アジア太平洋大学非常勤講師(現在立命館大学講師)であった Darby STANDS 氏に曲のアレンジ、ミキシング、マスターCD作成などをお願いしている。今回も多くの協力をいただいた。また、近畿大学工業高等専門学校より別枠研究費として助成していただいている。両者に感謝申し上げる。

た どう し      じ どう し      う た  
他動詞・自動詞の歌

*The Song of Transitive and Intransitive verbs*

1 pairs of words

しょうぼうしが      ひを      けします。  
Syoubousi ga      hi o      **k**esi-masu .

いますぐにも      ひが      きえます。  
Imasugunimo      hi ga      **k**ie-masu.



ドライバーが      くるまを      とめます。  
Doraibaa ga      kuruma o      **t**ome-masu.

ゆっくりと      くるまが      とまります。  
Yukkurito      kuruma ga      **t**omar-imasu.



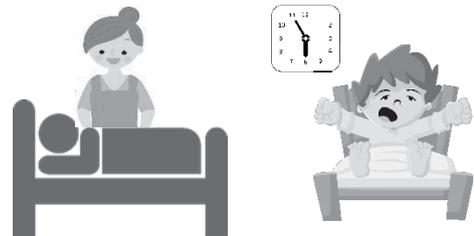
おとうさんが      でんきを      つけます。  
Otousan ga      denki o      **t**uke-masu .

あかるく      でんきが      つきます。  
Akaruku      denkiga      **t**uki-masu.



おかあさんが      こどもを      おこします。  
Okaasan ga      kodomo o      **o**kos-imasu .

あさはやく      こどもが      おきます。  
Asa hayaku      kodomo ga      **o**ki-masu.



2

かんこうきゃくが けしきを みます。  
Kankoukyaku ga kesiki o **mi**-masu.



くつきりと けしきが みえます。  
Kukkirito kesiki ga **mie**-masu.

おにいさんが おんがくを ききます。  
Oniisan ga ongaku o **kik**-imasu.



はつきりと おんがくが きこえます。  
Hakkirito ongaku ga **kikoe**-masu.

< 同じ語形 same words >

こどもたちが ふえを ふきます。  
Kodomotati ga fue o **huk**-imasu.



はげしく かぜが ふきます。  
Hagesiku kaze ga **huk**-imasu.



おねえさんが ドアを ひらきます。  
Onesan ga doa o **hirak**-imasu.



Automatic Doors



てをふれずに ドアが ひらきます。  
Te o hurezuni doa ga **hirak**-imasu.

2

©MIZOKUCHI 2017 さくし さっさく 作詞・作曲: Mizo. アレンジ: Darby Stands

*The Song of Transitive and Intransitive verbs*

1 pairs of words

しょうぼうしが      <vt.>to put out ①  
ひを (                      )。  
Syoubousi ga      hi o (k                      )。



いますぐにも      <vi.>to go out ②  
ひが (                      )。  
Imasuginimo      hi ga (k                      )。

ドライバーが      <vt.>to stop ③  
くるまを (                      )。  
Doraibaa ga      kuruma o (t                      )。



ゆっくりと      <vi.>to stop ④  
くるまが (                      )。  
Yukkurito      kuruma ga (t                      )。

おとうさんが      <vt.>to put on ⑤  
でんきを (                      )。  
Otousan ga      denki o (t                      )。



あかるく      <vi.>to be lighted ⑥  
でんきが (                      )。  
Akaruku      denkiga (t                      )。



おかあさんが      <vt.>to wake up ⑦  
こどもを (                      )。  
Okaasan ga      kodomo o (o                      )。



あさはやく      <vi.>to get up ⑧  
こどもが (                      )。  
Asa hayaku      kodomo ga (o                      )。

2

かんこうきゃくが けしきを ( )。 <vt.>to see ⑨  
 Kankoukyaku ga kesiki o ( m )。



くっきりと けしきが ( )。 <vi.>can be seen ⑩  
 Kukkirito kesiki ga ( m )。

おにいさんが おんがくを ( )。 <vt.>to listen ⑪  
 Oniisan ga ongaku o ( k )。

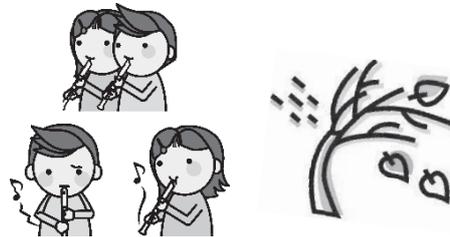
はっきりと おんがくが ( )。 <vi.>can be heard ⑫  
 Hakkirito ongaku ga ( k )。



< 同じ語形 same words >

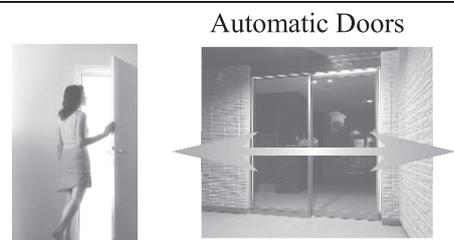
子どもたちが ふえを ( )。 <vt.>to play ⑬  
 Kodomotati ga hue o ( h )。

はげしく かぜが ( )。 <vi.>to blow ⑭  
 Hagesiku kaze ga ( h )。



おねえさんが ドアを ( )。 <vt.>to open ⑮  
 Onesan ga doa o ( h )。

てを ふれずに ドアが ( )。 <vi.>to open ⑯  
 Te o hurezuni doa ga ( h )。



た どう し      じ どう し      う た  
 他 動 詞 ・ 自 動 詞 の 歌

*The Song of Transitive and Intransitive Verbs*

作詞・作曲：Mizo

♩=120

MIDI 1

し ょ う ぼ う し が      ひ -- を け し      ま      す  
 か ん こ う き ゃ く が      け し き を み --      ま      す

い ま す ぐ に も      ひ -- が き え      ま      す  
 く っ き -- り と      け し き が み え      ま      す

ド ラ イ バ ー が      く る ま を と め      ま      す  
 お に -- さ ん が      お ん が く を き き      ま      す

21 C 22 F G 23 C 24

ゆ っくーりと      く るまがとまりま      す  
は っきーりと      おん がく がきこえま      す

25 C 26 F C 27 28 F C

お とうさんが      でん きをつけます      あ かーるく      でん きがつきます  
こ どもたちが      ふ えをふきます      は げーしく      か ぜがふきます

29 C 30 F C 31 32

お かあさんが      こ どもをおこしま      す  
お ねえさんが      ド アーをひらきま      す

33 C 34 F G C 35 36

あーさはやく      こ どもがおきま      す  
てをふれずに      ド アーがひらきま      す

2

©MIZOKUCHI 2017 (作詞・作曲・歌:Mizo. アレンジ: Darby Stands)